

アシクロビルの服用で長年苦しんでいた
腸の症状が少しずつ良くなり始めました

「潰瘍性大腸炎 完治一步手前」

康博 43歳

2017年7月18日

以前提出した[中間報告](#)では、2008～2015年までの事を手記にしましたので、2016年からの事を書きたいと思います。

<2016年>

中間報告にも書いた通り、一日の便の回数は2～3回程度になりましたが、排便に時間が掛かり（約1時間）終わっても何かスッキリしなくて残便感が一日中続くためになかなか気軽に外出する事が出来ない事が、1番のストレスの原因になっていました。勿論ストレスは免疫抑制してしまうので、今の現実を受け止め、出来るだけストレスに思う事を止める努力はしていました。そして便の状態は、良くて軟便で下痢便も出ていました。狭窄かは分かりませんが、詰まる感じがする箇所が二か所あります。腸にガスがよく溜まるので、抗生物質のフラジールを服用していました。血沈やCRPは正常値の範囲内でしたが、貧血のためフェルムカプセル（鉄剤）とメチコパール（鉄の吸収を高める効果がある）を服用していました。リンパ球は19%しかありませんでした。ヘルペスや鼻炎などのアレルギー症状が時々出ていました。アトピーは手の甲にたまに出ては消える程度でした。

2016年になり（正確には2015年の12月頃からの事です）冬になり気温が下がり始めると下半身の冷えが気になる様になり、特に足先の冷えが酷くなり、足の指、足の甲、足の裏の感覚が鈍くもあり、敏感でもあり、何か違和感が出て来ました。地面に足を着けた時に、足の裏が分厚くなった様な感覚になる事と、足の指が曲げづらくなりました。この時は冬の寒さで血流が悪くなって起こっていると勝手に解釈し、暖かくなれば良くなるだろうと思っていましたがあまり変わりませんでした。

4月に松本医院を受診した際に足の事を伝えると、EBウイルス（エプシュタイン・パール・ウイルス）と単純ヘルペスが感染して起きているとおっしゃいました。血液検査の結果でもEBVの抗体価は9.7と、とても高い値が出ました。このEBウイルスは、B細胞に感染し免疫が落ちると異常増殖し、正常なプロセスを経ずに抗体（IgM）を作り、その抗体をクラススイッチ（IgM→IgG、IgE、IgA）させるのです。その抗体が血中にどんどん流れて、体のあらゆる部分でクロスリアクションが起きて、あらたな膠原病の原因になるのです。また、EBウイルスに感染したB細胞は、不死化（ガン化）

するものもあるので、ヘルペスウイルスの中でもとても恐ろしく厄介なヘルペスウイルスです。

治療としては、ヘルペスの漢方（治打撲一方湯）で免疫を上げ、アシクロビルで増殖抑制し、ヘルペスウイルスは、リンパ球のNK細胞とキラーT細胞でしか殺せないの、自分の免疫でしか治せないと言う事です。あとEBウイルスは、神経細胞よりは上皮系細胞に感染しやすいと言う事です。そしてこの時点では、アシクロビルや漢方は飲まず、とりあえず様子を見る事になりました。

この時の血液検査で、CRP・血沈が正常値、貧血も改善した事で、炎症の漢方とフェルムカプセル（鉄剤）は無くなり、下痢止めの漢方（断痢湯）だけになりましたが、リンパ球は19%から14%に下がってしまいました。この下がってしまった原因には自分に思う節があり、いくら免疫を上げる努力をしたとしても、精神面が不安定になれば免疫を抑制してしまい、この様に下がってしまうので、精神面の安定がいかに重要かと言うことを改めて感じました。

そして10月に松本医院へ受診した際に先生と色々話し、とりあえずヘルペスの漢方だけ飲む事になりました。この時の血液検査でも、CRP・血沈ともに正常値、度々繰り返していた貧血も今回も正常値の範囲内でした。リンパ球も14%から18.6%へと少し上がりましたが、まだまだ全然足りません。そして、単純ヘルペス抗体価は83.1、EBウイルス抗体価は9.7と、とても高い値です。

そして2016年の腸の状態は、1日の便の回数は2～3回ですが、ほぼ2回に治まって来ました。便の状態は、基本軟便ですが下痢便も出ます。ふつう便ではありませんが固形便も出る様になって来ました。排便時間も日によって差はありますが、少しずつ短くなって来ました。残便感は少しましになりましたが、まだまだ気になります。ここが改善しない事には自由に外出する事も出来ないの辛い事です。あと、便をした後にお腹が緩くなる感覚や、腸管が引っ張られる様な感覚と言うか、言葉では表現しづらいのですが、妙な違和感が出ますが、ガスが出ると治まります。あとガスが溜まると腸管を圧迫するのか便意を感じますが、これもガスが出れば治まります。足の状態は平行線と言う感じ。あと耳鳴りが1日中する様になりましたが、酷くはないのであまり気になりませんし慣れました。

<2017年から現在>

2017年の2月頃からヘルペスの漢方+アシクロビルを1日8錠飲み始めました。すると少しずつ排便時間が短くなり始めた事で、腸にヘルペスが感染しているために様々な不快な症状を起こしているのでは無いかと思う様になりました。これは嬉しい誤算でした。もともと足に感染したEBウイルスの為に始めた治療で、長年苦しんでいた腸の症状が少しずつ良くなり始めたからです。そして時々拝見していたNaokiさんのブログにも、IBDとヘルペスの関係性が書かれてあり納得しました。腸管の周りには、1億以上の神経細胞が張り巡らされ、蠕動運動や粘液の分泌などの調節をしていて、HSVやVZVが腸管の神経細胞・神経叢（アウエルバッハ神経叢・マイスナー神経叢）に感染し、神経から出て来たHSVやVZVを免疫が殺す時に、腹痛や蠕動運動異常、下痢や便秘の原因になると言う事。HSV・VZVは、交感神経や副交感神経にも感染し、

特に交感神経に感染すると、排便異常をきたすと言う事です。この事から長年苦しんでいた腸の問題は、ヘルペス（HSV・VZV）も原因の一つだったと言う事が解りました。そしてリバウンド時に、下痢が酷くなる程排便に時間が掛かっていた事も、腸管に感染していたヘルペスと免疫が戦っていた時の症状だったんだと思います。

今現在は、排便時間は正常では無いもののある程度良くなりました。残便感も少しずつ良くなっていますがまだあります。（原因はヘルペスとリバウンドを何回も繰り返したので、酷くは無いものの狭窄があるのかも知れません。）1日の便の回数は、基本2回でごく稀に1回の時と3回の時があります。便の状態は、普通便では無いものの固形便が出ます。まだ軟便や下痢便も出ますがヘルペスが原因で起こっているか、アレルギー性の物だと思います。ガスがよく溜まりますが、これはウェルシュ菌が増殖時に大量のガスを放出するためで、免疫の低い私はどうしても殺しきれ無いのでガスが溜まって仕舞うのだと思いますが、抗生物質のフラジールである程度改善します。

EBウイルスが感染している足は平行線です。EBウイルスには、アシクロビルの効きがとても弱い事と、私の免疫が低いのが原因でなかなか減りません。ここであのアシクロビルの2000～3000倍の効果があると云われるソリブジンがあればと思いますが、今は例の事件で製造されなくなってしまいました。とても残念な事ですが、どちらにしてもヘルペスを殺せるのは自分の免疫だけなので免疫を上げるのみです。

他には耳鳴りが1日中続く事と、1日中身体の怠さがあります。鼻炎（特に鼻づまり）によくなります。時々、色々な症状が出ますが、殆どヘルペスが原因の事ばかりです。松本先生が何時も、「最後に必ずヘルペスウイルスが残るとおっしゃっています」が、まさにその通りです。私は、愚かにも9年間に72000mgのステロイドを使用してしまい、初めて松本医院を受診した時の血液検査では、リンパ球が2.4%しか無かったのです。そんな私の身体は、ヘルペスにとっては天国の様な場所です。そのため、リバウンドもとても辛く厳しいものになってしまいました。

潰瘍性大腸炎自体は、完治まであと1歩の所まで来ているにも関わらず、なかなか普通の生活が送れないのも、すべてステロイドを大量に使用し免疫抑制し遺伝子の働きを変えてしまった事と、ヘルペスや腸内細菌（悪玉菌）を大量に増殖させてしまった事が原因なのだと思います。しかし、これだけ免疫を抑制したにも関わらず、松本医院での治療中に緊急事態に至らなかったのは、腸管にサイトメガロウイルス（CMV）がいなかったからだと思います。血液検査でも6.0未満の陰性でした。EBウイルスは分かりませんが、殆どが足先の方に感染しているだけなのかもしれません。とにかく病気は自分の免疫でしか治す事が出来ないのです、そのためには精神面がとても重要だと思いました。

当たり前の事ですが、どんなに免疫を上げる努力をしても、精神面が不安定になれば免疫は全く上がらないからです。私は、2014年まではこの治療だけに専念出来ていましたが、2015年頃から治療だけに専念する生活が出来なくなり、ストレスから情緒不安定になり免疫が上がったり下がったりを繰り返す様になってしまったからです。松本医院の治療は簡単に言えば、“免疫抑制せず免疫を上げて免疫の働きを正常に戻し病気を治す”と言う治療法です

から、日常生活のストレスをいかに少なくするかと言う事がとても大切になります。

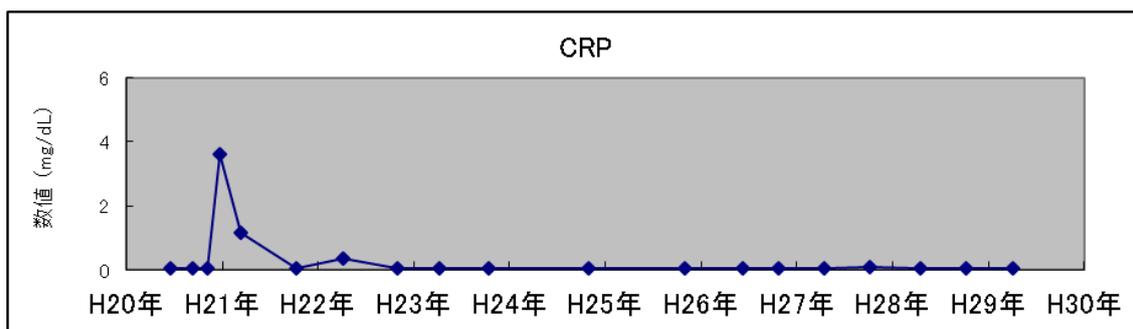
そして、免疫を抑制せず免疫を上げ続ければ病気は治るのです。それは数多くの患者さんの手記が物語っていると思います。しかし、私の様に標準治療で免疫抑制しすぎた方は、とても激しいリバウンド症状が起きますから家族のサポートが必ず必要になりますし、いつ終わるかも分からないリバウンドが繰り返しますのでとても精神的にも辛くなります。人によっては体力的にも、もたない場合も出て来ますので、相当の強い覚悟が必要です。(現に、途中でリタイアする方もいらっしゃるようです。) 金銭面も大きな負担が掛かりますから、治せる治療だからと言って簡単に考えては行けません。治す事が出来るのはこの治療だけなので、松本理論を良く理解し、納得した上でやるかやらないかを決めれば良いと思います。

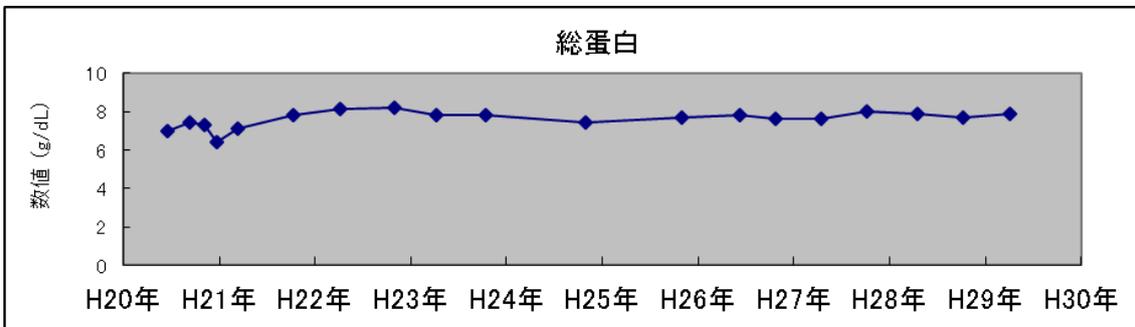
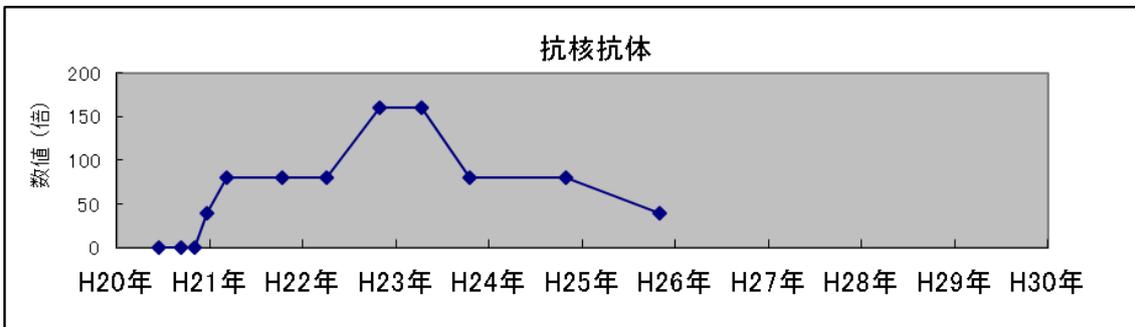
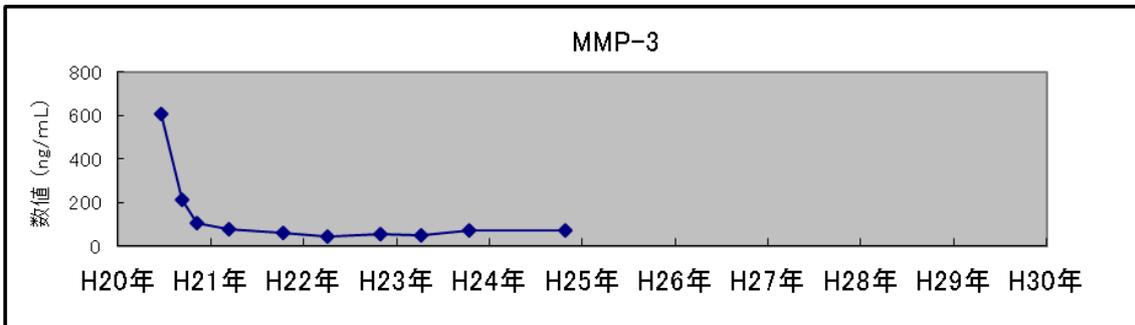
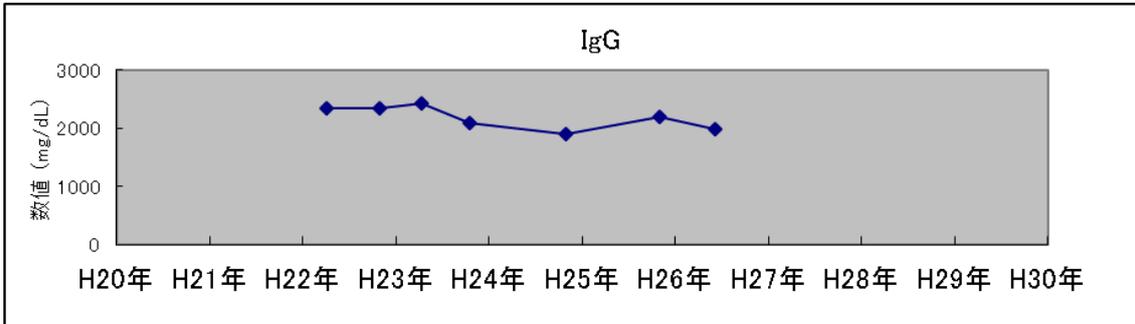
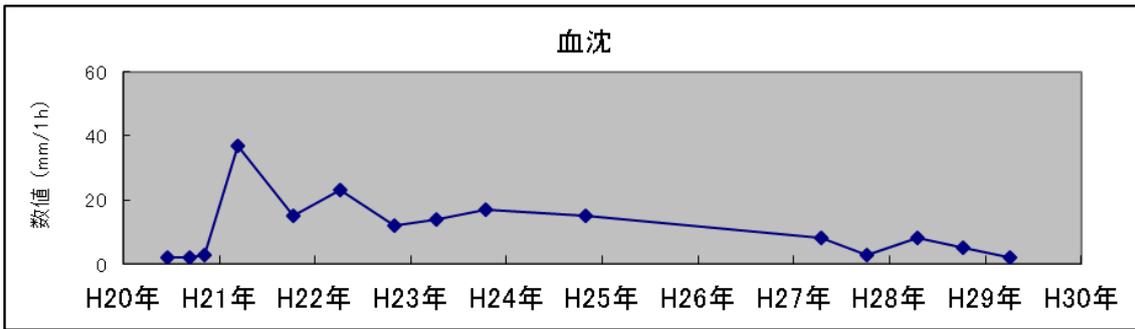
標準治療の期間が短かったり、IBDが初期の方は、短期間で治る方がいらっしゃいますのでやった方が良いと思いますが、全ては本人の自由ですので、自分が納得した物を選べば良いと思います。しかし、治す事が出来るのは、松本理論に則った治療法だけです。

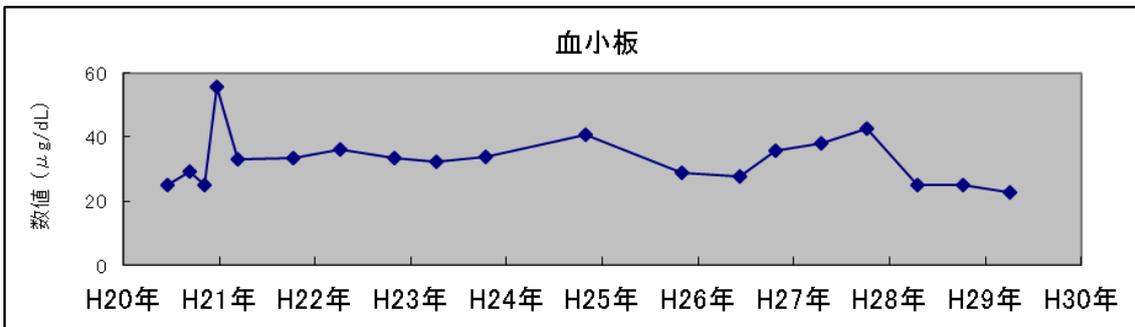
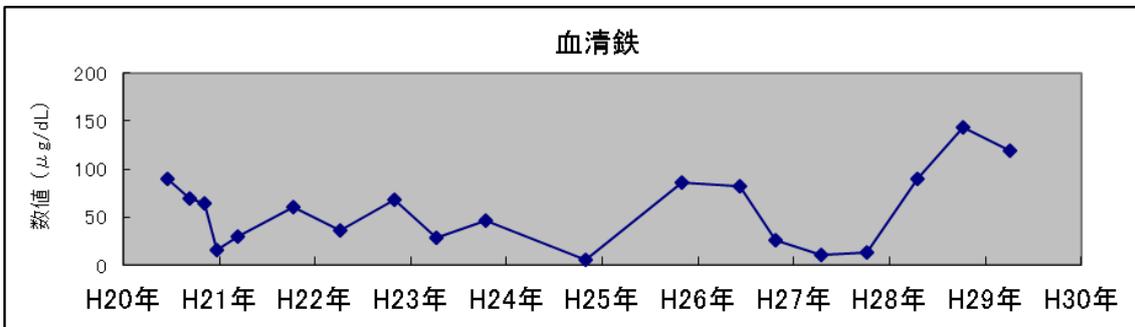
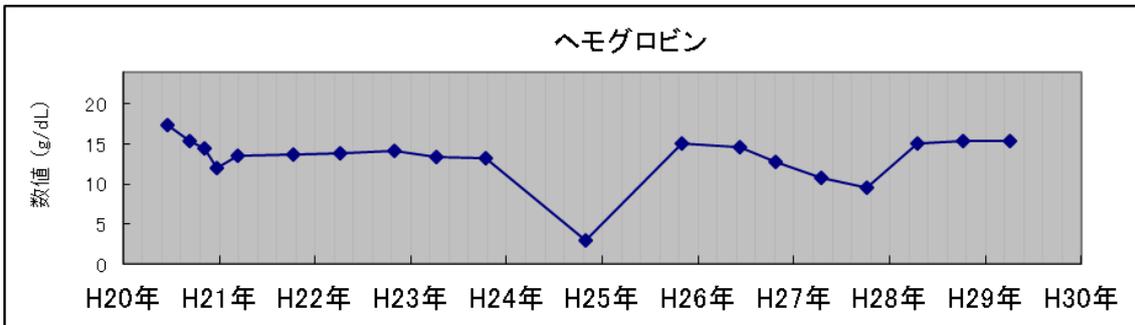
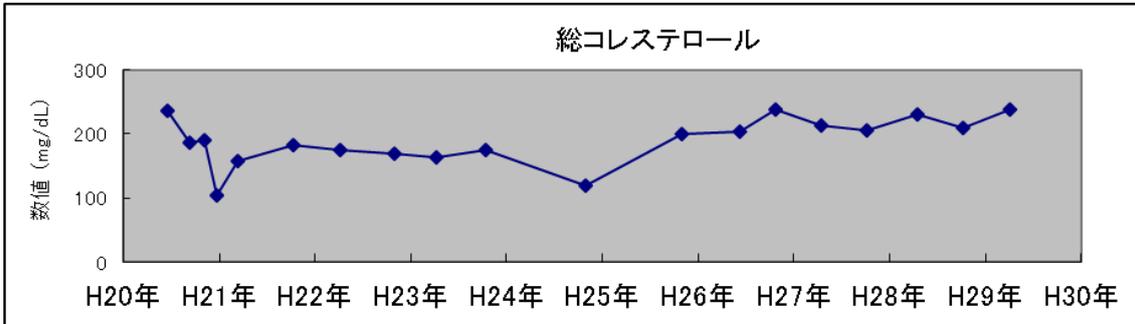
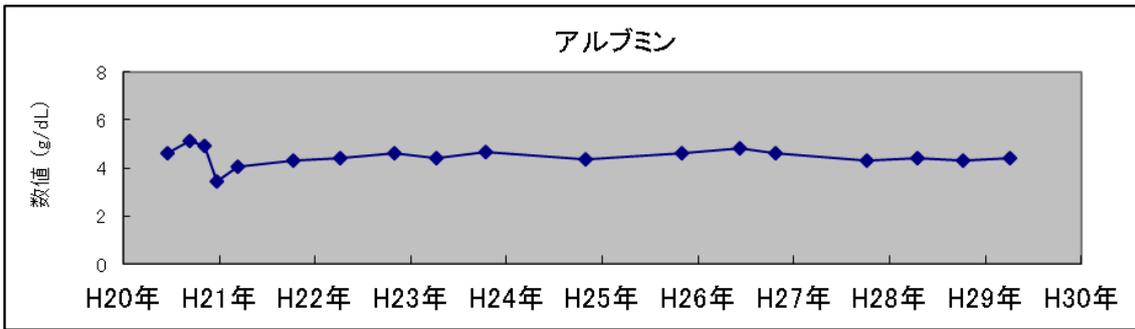
<感謝>

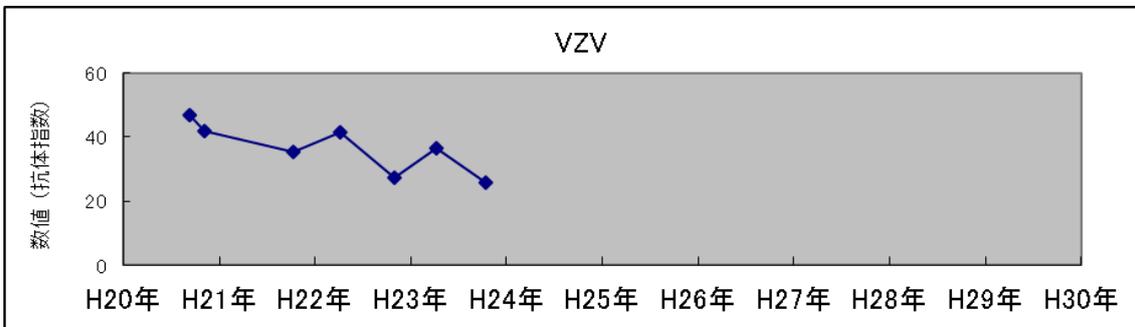
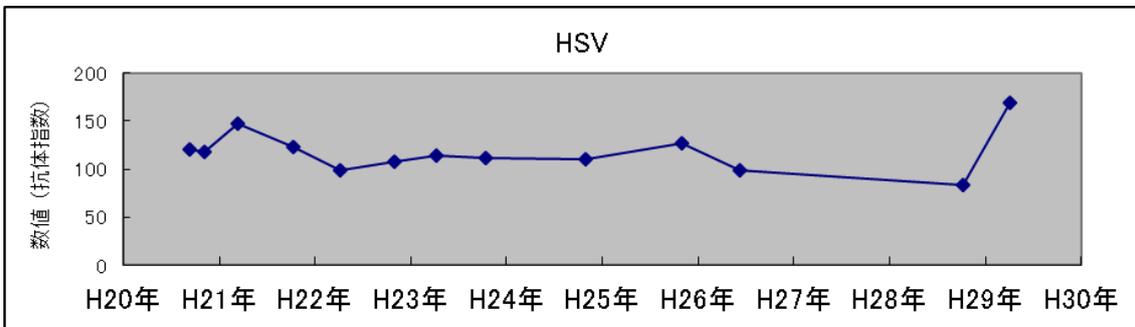
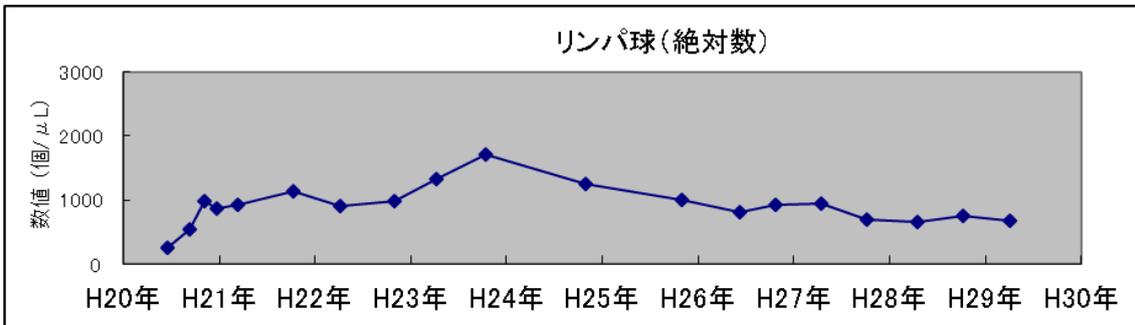
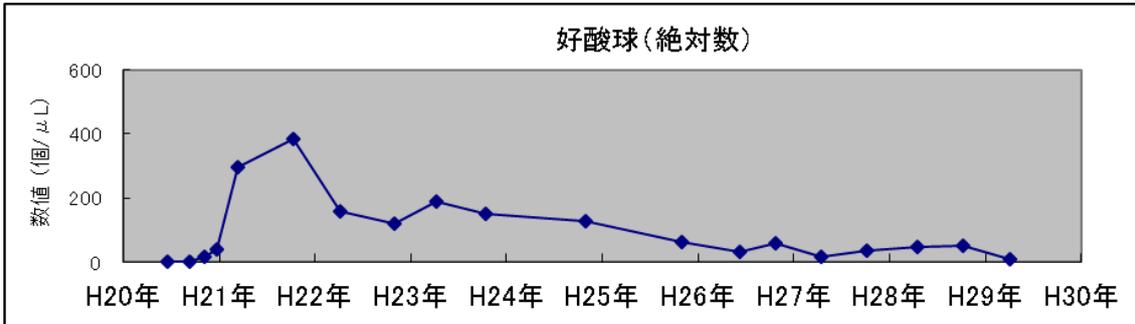
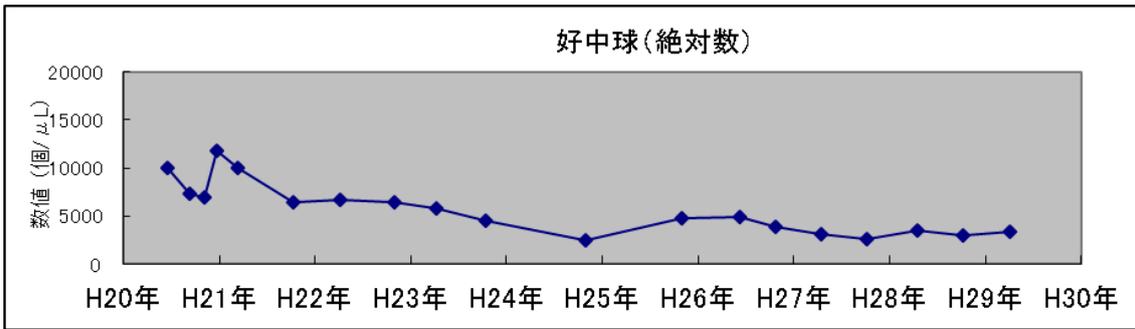
最後に、この治療をするに当たり、家族の有り難さや大切さを本当に感じました。リバウンドも長期に亘り何回も諦めかけましたが、その都度励まされ、また頑張る事が出来、何とか乗り切る事が出来ました。家族のサポートが無ければ、途中で諦めていたと思います。本当に家族には感謝しています。また、IBDやヘルペスの事を解り易く書いて下さっている Naoki さんや、素晴らしい手記を書いて下さっている皆様にも、とても感謝しています。そして何よりも、長年に亘り治療をして下さった松本先生に、感謝、感謝です。私は、72000mgのステロイドを使用した為、この治療中に様々な症状が出ましたが、その都度迅速に対応して頂きとても助かりました。そして今の医療業界において、強い信念のもと真実の医療を追究し続けている先生がいらっしゃる事は、誠に有り難い事です。先生がいなければ私は今、生きていなかったかもしれません。松本先生、本当にありがとうございました。しかし、まだヘルペスの治療が残っていますので、これからも松本先生を始め、松本医院に関わる全ての皆様にはお世話になりますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

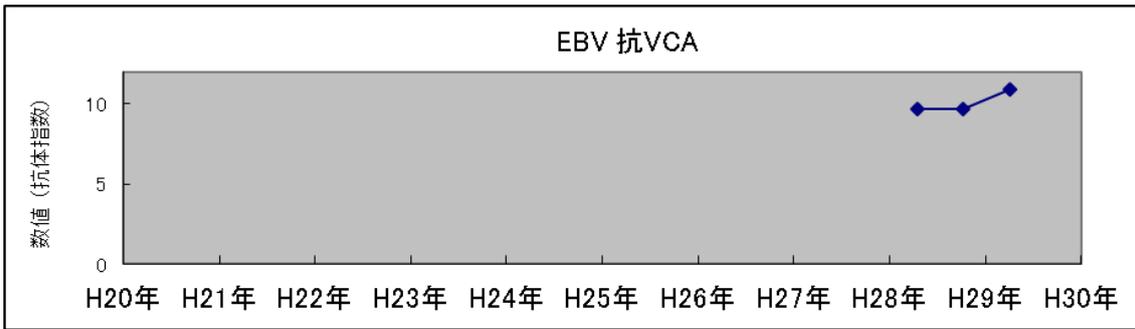
まだ完全に完治したわけではありませんが、先生から手記を書いても良いのではとおっしゃいましたので、この手記を完治の手記とさせていただきます。











2017/4/12 CMV : 陰性